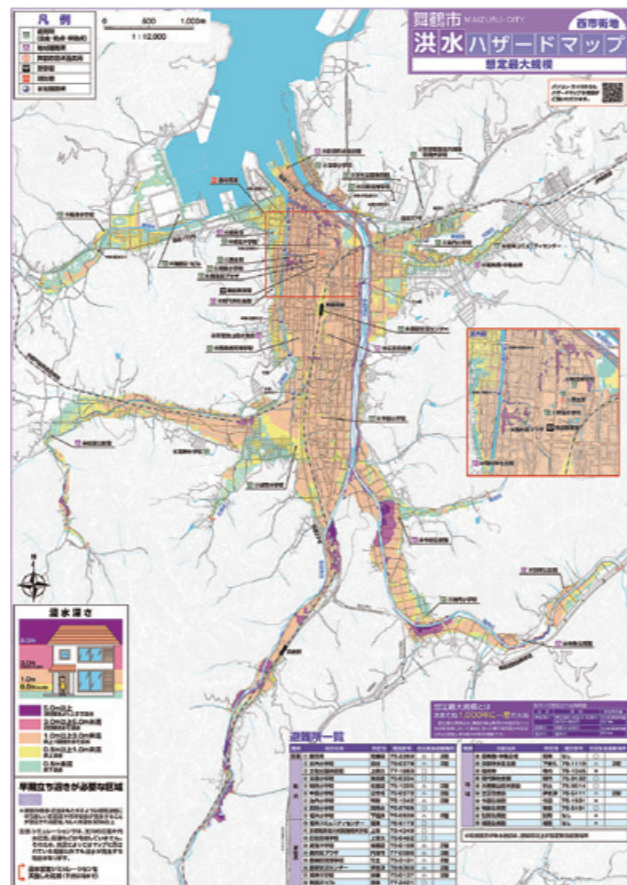


▲土砂災害ハザードマップ



▲洪水ハザードマップ

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報 (警戒レベル相当)	
				浸水の情報 (河川)	土砂災害の情報 (雨)
5	災害発生 または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ (警戒レベル4までに必ず避難!) ~~~~~					
4	災害のおそれ 高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害のおそれ あり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認	大雨・洪水注意報	2 氾濫注意情報	—
1	今後の気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報	1 —	—

市区町村長は、河川水位や雨の情報(警戒レベル相当)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

## 台風の季節を迎えて、日頃から考えたい

# 命を守る備え

避難情報は5段階

レベル4は危険な

場所から全員避難

これから、台風が多く発生する季節を迎えます。国や市から出す避難情報等は、5段階の「警戒レベル」でお知らせします。市からは「レベル3」以上を防災行政無線やまいづるメール配信サービスなどで伝達します。

◆警戒レベル1・2…気象情報などに注意し、もしものときの行動を確認。

◆警戒レベル3「高齢者等避難」…避難に時間のかかる高齢者等は「3」と聞いたら危険な場所から避難を開始。

◆警戒レベル4「避難指示」…迷わず急いで、危険な場所から全員避難。

◆警戒レベル5「緊急安全確保」…命の危険が迫っている状況。身を守る最善の方法を。

◆ハザードマップで確認を

どんな場合でも、レベル4で必ず危

険な場所から避難してください。自分

がよくなる場所が危険かどうか、事前にハザードマップなどで確認し、市が開発する避難所だけでなく、親戚や知人の家など、安全な避難先や避難経路を決めておきましょう。

※マップは、市ホームページに掲載市街地洪水・土砂災害ハザードマップは希望者に配布可。

◆洪水ハザードマップ  
想定される最大規模(おおむね千年に一度の大雨が降った場合)の浸水状況などを掲載した東・西市街地洪水ハザードマップと、由良川洪水ハザードマップを作成しています。

◆土砂災害ハザードマップ  
住んでいる地域ごとに、急傾斜地・土石流・地すべりの土砂災害(特別)警戒区域を掲載しています。

避難所は集団感染が起こる可能性がある場所です。一人ひとりが気を付けて、さまざまな工夫を行うことで感染を防ぐことができます。避難所での検温や体温計・消毒液の持参などにご協力をお願いします。



## 避難所を利用するときは

避難所は集団感染が起こる可能性がある場所です。一人ひとりが気を付けて、さまざまな工夫を行うことで感染を防ぐことができます。避難所での検温や体温計・消毒液の持参などにご協力をお願いします。

《危機管理・防災課》

## マイ・タイムラインを作ってみよう

避難情報が発表されたとき、誰が、どう行動するのか決めておく「マイ・タイムライン」(避難行動計画)を作ってみましょう。家族で共有しておくことで安心です。ハザードマップには、その記入シートを掲載しています。



▲青色が目印のマイ・タイムライン記入シート



## 避難行動判別フロー

### あなたが取るべき行動は？

